

平成 30 年 9 月 11 日
豊 島 区

9 月 11 日 豊島区長・秩父市長合同記者会見

1、「豊島区・秩父市が進める生涯活躍のまちづくり」について

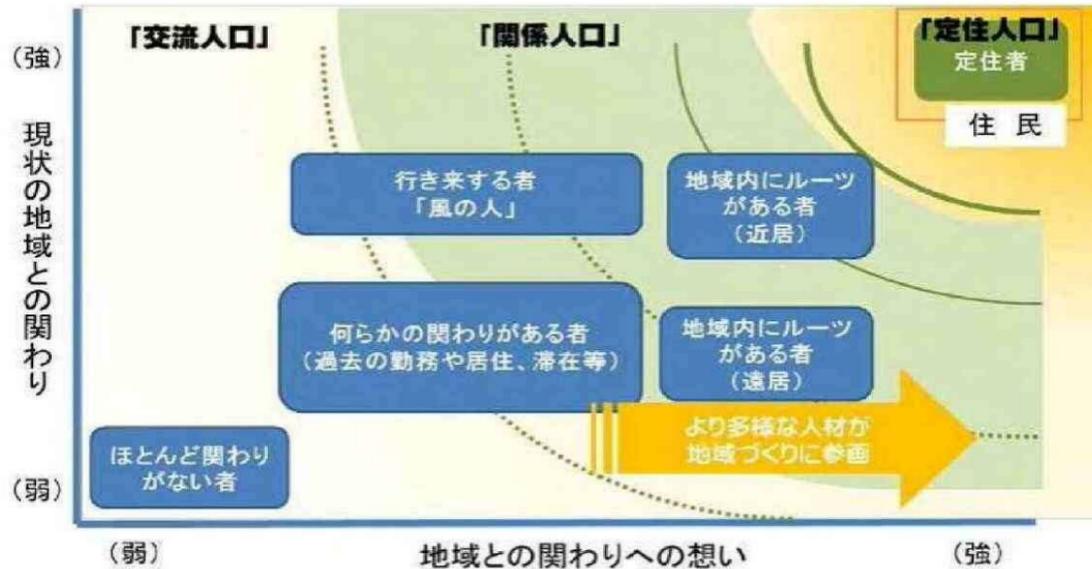
詳細についての問い合わせ先

豊島区 企画課
電話 03-4566-2511

秩父市 地域政策課
電話 0494-22-2823

① 豊島区を含め都心部は、区民の生活が、全国各地域に支えられてきたことを再認識し、各地域の人口が減少し衰退していくことは、区民の生活基盤の沈下につながるという危機感を持つ必要がある。

★国の進める「関係人口」論と豊島区の考え方



総務省「これからの移住・交流施策のあり方に関する検討会報告書」より

③ 【豊島区の考え方】

35年にわたる豊島区と秩父市の姉妹都市としての歴史、約80分で行き来できるアクセス関係などから、「二地域居住」に好条件がそろっている。

今後 「二地域居住」が実現しやすい環境を整備



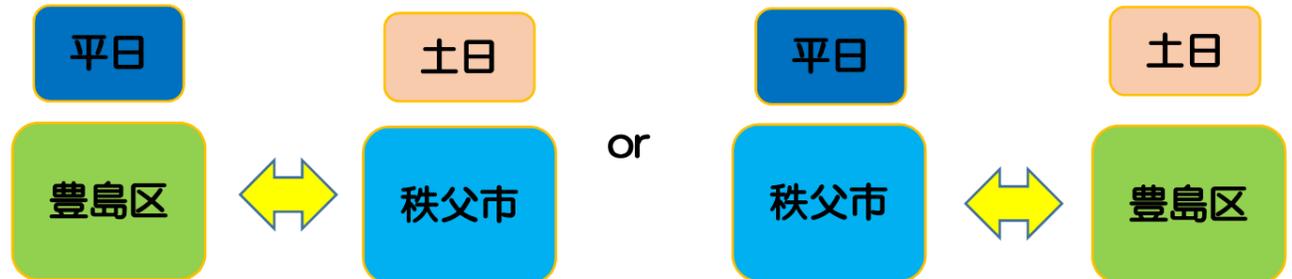
さらに、今後、豊島区と秩父市とのサービス面での相互連携の検討

② ★豊島区・秩父市による生涯活躍のまちづくりの推進

人口を奪い合わない移住・交流促進事業の推進及び区民のライフスタイルの選択肢拡大により、若い世代を含めた多世代による秩父市への移住、二地域居住及び交流を通じた豊島区・秩父市の活性化につなげ、両自治体が今後も発展し、豊かな生活を実現できるまちづくりを進めている。

【豊島区の提案する二地域居住】

豊島区から秩父市へ「移住した方」を前提とした二地域居住！



各世代のライフスタイルのイメージ

高齢層

平日は秩父市で自然豊かな環境で生活し、土日は豊島区の文化芸術イベントに参加するなど、生きがい創出につなげていく

ファミリー層

平日は勤務、通学に便利な豊島区で生活し、土日は秩父市の自然豊かな環境で遊び、体験し、都会にはない生活を実現する

ライフスタイルや価値観にあわせ、
区民の選択肢を拡大！

豊島区・秩父市が進める 生涯活躍のまちづくり

1. 豊島区が進める「様々な地域との共生」～豊島区・秩父市版生涯活躍のまちづくり～

人口を奪い合わない移住・交流促進事業の推進及び区民のライフスタイルの選択肢拡大により、若い世代を含めた多世代による秩父市への移住、二地域居住及び交流を通じた活性化につなげ、豊島区・秩父市がともに今後も発展していくモデルを構築し、ともに豊かな生活を実現できるまちづくりを進めている。

◆消滅可能性都市から持続発展都市へ

- 豊島区を含め都心部は、区民の日常の暮らしが、全国各地域における農林水産業等に支えられて成立してきたことを再認識し、各地域の人口が減少し衰退していくことは、区民の生活基盤の沈下につながる状況に向き合う必要がある。
- 豊島区と秩父市は昭和 58 年に姉妹都市の提携をして以降、長い歴史を共有してきたパートナーであるが、平成 26 年 5 月、両自治体とも「消滅可能性都市」の指摘を受けた。この指摘を契機として、若い世代も含めた多世代の交流を活性化することで、互いに発展していくための連携を進めてきた。
- その中で、このたび、秩父市が進める豊島区民も入居対象とされているサービス付き高齢者向け住宅整備における事業者が決定し、いよいよ建設に向け動き出した。ライフスタイルが多様化する中、この事業によって、豊島区民の選択肢がまた一つ増えることを期待している。
- 今後は、さらなる人口減少社会への挑戦として、総合的な高齢社会対策を踏まえ、国の進める「関係人口」増加への取り組みを深化させ、豊島区と秩父市を合わせた共生地域の人口増加を目指していく。また、豊島区から秩父市へ移住した区民も含め、秩父市とのサービス面での相互連携についても検討していく。

2. 「秩父市生涯活躍のまちづくり」とは

秩父市では、「都市部などの住民が、自らの意思で秩父へ移り住み、秩父の住民と交流しながら、健康でアクティブな生活を送れるとともに、医療・福祉等の地域ケアも整ったまちづくり」を目指し「秩父市生涯活躍のまちづくり（秩父版 CCRC）」を進めている。

CCRC …「Continuing Care Retirement Community」の略。高齢者が元気うちに地方に移住して社会活動に参加し、介護や医療が必要になった場合もケアを受けて暮らし続けることができる生活共同体（コミュニティ）。アメリカが発祥。

日本版 CCRC（生涯活躍のまち） …中高年齢者が希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、地域の住民（多世代）と交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる地域づくり。

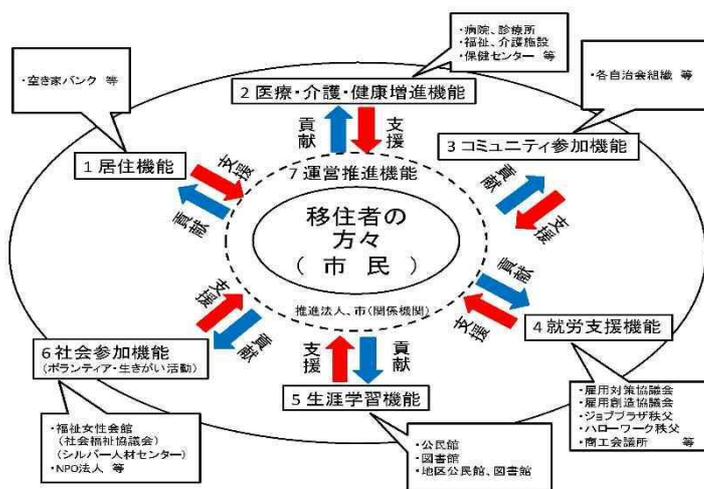
※ 国が進める生涯活躍のまち（日本版 CCRC）は中高年齢者を対象としている。

しかし、秩父市が豊島区と連携して進める秩父市生涯活躍のまちづくりでは、高齢者（アクティブシニア）のみならず、若い世代も含めた多世代を対象に考えている。

○ 総合的な移住政策

平成 27 年度策定の『秩父市総合戦略』に基づき、豊島区と連携して、移住者の増加を図る。移住者に対し、現居住者も巻き込みながら、生涯活躍のまちづくりに必要な 7 つの基本機能を充実させ、提供する。

7つの基本機能 …「①居住」「②医療・介護・健康増進」「③コミュニティ参加」「④就労支援」「⑤生涯学習」「⑥社会参加」「⑦運営推進（ソフト機能）」



「秩父市生涯活躍のまちづくり基本計画」より

3. 2つのプロジェクト

「総合事業（移住・交流促進事業）」と「モデル事業（拠点整備事業）」の2つの事業を、同時並行的に進めていく。

	内容	豊島区	秩父市	実施年度等
1 総合事業	(1) 地方居住を考えるワークショップ	○	○	平成 28 年度
	(2) 移住相談センターの設置	-	○	平成 29 年度～
	(3) ①お試し居住用住宅	-	○	平成 29 年度～
	(3) ②モニターツアー	○	-	平成 29 年度～
	(4) 区民ひろばとの交流事業	○	○	平成 29 年度～
	(5) 秩父市有住宅の入居条件緩和	-	○	平成 30 年度～
	(6) お試し農体験事業	○	○	平成 30 年度～
(7) 公民連携事業	○	○	平成 30 年度～	
2 モデル事業	花の木プロジェクト（サービス付き高齢者向け住宅等整備）	-	○	平成 30 年度～

※豊島区・秩父市の欄の「○」印は主催のこと

4. これまでの経緯（概略）

- 平成 26 年 5 月 豊島区及び秩父市が消滅可能性都市に指定（日本創成会議）
- 平成 27 年 6 月 秩父市長・豊島区長電話会談
※連携して、生涯活躍のまちづくりを進めていくことを合意
- 12 月 生涯活躍のまち構想（国）
- 平成 28 年 3 月 秩父版 CCRC 検討会議発足（秩父市）
秩父市総合戦略作成（秩父市）
- 7 月 地方居住を考えるワークショップ（豊島区・秩父市）
- 12 月 秩父市生涯活躍のまちづくり構想（秩父市）
- 平成 29 年 1 月 秩父版 CCRC 検討会議構想案まとめ（秩父市）
- 3 月 秩父市生涯活躍のまちづくり基本計画（秩父市）
- 4 月 人事交流（秩父市・豊島区職員相互派遣）、移住相談センター設置（秩父市）
- 9 月 お試し居住モニターツアー（豊島区）
- 平成 30 年 4 月 移住促進助成金開始（秩父市）
秩父市有住宅の入居条件緩和（秩父市）
- 6 月 お試し農体験事業開始（豊島区・秩父市）

(別紙) 2つのプロジェクト (総合事業とモデル事業) の詳細

1. 総合事業 (移住・交流促進事業)

市全域、若者を中心とした幅広い年代を対象に、都市部と秩父市の両方を行き来する「二地域居住」をはじめとする多様なニーズに対応した移住・交流を促進するための事業を実施している。

(1) 地方居住を考えるワークショップ (秩父市・豊島区)

両自治体が連携し、移住のあり方、多世代がいきいきと暮らし続けることのできる多世代共創のまちの実現を目的として、平成 28 年 7～12 月まで全 5 回開催し、豊島区民や秩父市関係者が 42 名参加。



ワークショップの様子

(2) 移住相談センターの設置 (秩父市)

平成 29 年 4 月より、秩父地域地場産業振興センター内に「移住相談センター」(職員及び「地域おこし協力隊」(平成 30 年 9 月現在: 3 人)が午前 10 時から午後 3 時の間常駐)を設置。

移住相談センターでは、移住相談対応、秩父市の PR 活動のほか、移住者向けの支援制度の設置等、移住に関する各種取組を総合的に進めている。



移住相談センター入口

(3) お試し居住事業 (秩父市・豊島区)

① お試し居住用住宅 (秩父市: 平成 29 年 7 月～)

秩父への移住を希望、検討されている方向けに、市内工務店のモデルハウスを活用する形で整備 (3～7 日間無料で利用可能)。※平成 30 年 8 月末現在で 37 組 104 名利用

② モニターツアー (豊島区: 平成 29 年 9 月)

西武トラベルが旅行企画・実施。9 組 23 名が参加。

※本年 11 月に第 2 回を実施予定。



お試し居住用住宅

(4) 秩父市有住宅 (井ノ尻住宅) の入居条件緩和 (秩父市)

平成 30 年 4 月 1 日より、秩父市中村町 3 丁目の「特定公共賃貸住宅 (特公賃) 井ノ尻住宅」を、新たに「秩父市有井ノ尻住宅」とし、秩父市への移住や二地域居住を検討している豊島区民向けに、入居条件を緩和した (単身者や二地域居住の方も入居可能に)。



井ノ尻住宅 (内観)

(5) 区民ひろばとの交流事業（秩父市・豊島区）

豊島区内の区民ひろばで、秩父市の文化体験等に関する事業を実施。平成 29 年度は 5 回実施（秩父産木材を活用した木工教室、秩父銘仙に関するワークショップ・物販、秩父屋台囃子の披露等）。平成 30 年度も継続実施中。



区民ひろば交流事業

(6) お試し農体験事業（秩父市・豊島区）

農業体験型農園として、秩父市に平成 30 年 6 月 5 日に開園。申込者は 23 名で、11 月まで継続実施（全 6 回）。

参加者が共同で作物を栽培し、植え付けから、収穫までを地元の農家の方の指導等を受けながら農業体験を行う。



お試し農体験用農地

(7) 公民連携事業（秩父市・豊島区）

としま産業振興プラザの指定管理者であるサントリーパブリシティサービス(株)等と連携し、秩父市の「食」をテーマにしたコラボ事業を実施

◆IKE・Biz ワイン講座（7 月 21 日）

→「自家畑で栽培したぶどう+自社醸造所での生産」という本格的な自家製秩父産ワインで有名な秩父ファーマーズファクトリー「兎田（うさぎだ）ワイナリー」より、当該講座の中でワインの紹介や試飲を実施。



ワイン講座チラシ

◆egg（レストラン）とのコラボ料理提供（11 月予定）

→世界一の朝食を出すレストランとしても名高い「egg」と商品がテレビで紹介されるなど全国的にも有名な秩父市の卵農場「アクアファーム秩父」によるコラボ料理を提供する予定。

2. モデル事業（拠点整備事業）（秩父市）

豊島区をはじめとした都市部のアクティブシニア（中高年齢層）を主な対象に、居住・生涯

学習・社会参加等の基本機能を 1 つのエリア（施設）で提供し、エリア（施設）内で「サービス付き高齢者向け住宅（以下「サ高住」という。）」など拠点施設の整備を行う。

サービス付き高齢者向け住宅 …バリアフリー化され、入居者の状況把握と生活相談サービスの提供を必須とする高齢者向け賃貸住宅。



サ高住（居室イメージ）

地域に開かれた「交流拠点施設」を併せて整備することで、入居者が地域に溶け込んだかたちで、生きがいをもって健康でアクティブな生活が送れるとともに、地域医療機関等と連携し、医療・福祉など「地域包括ケア」の整った「多世代共生のまちづくり」のモデルとしていく。

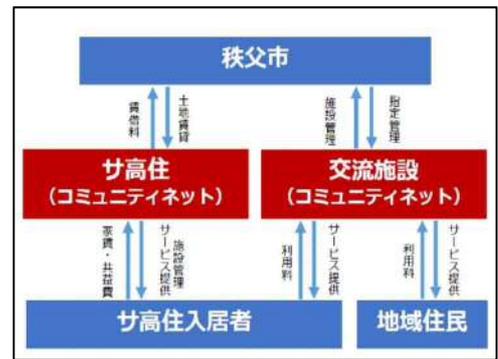
拠点整備事業においては、新築型（花の木プロジェクト）とリノベーション型（既存の集合住宅を改修）の 2 案を、並行して進めていき、現在は新築型（花の木プロジェクト）をメインに進めている。

<花の木プロジェクト>

秩父市上町3丁目の「市営花ノ木住宅」の未利用地を活用し、敷地の北側部分に市が「交流拠点施設」

(平成31年3月完成予定)を新築整備し、南側部分を事業者(株)コミュニティネットに貸し付け、「サ高住」(平成31年秋頃完成予定)を新築整備し、運営を行う公民連携型の「生涯活躍のまちづくり事業」を展開する。

また、交流拠点施設の管理運営についても事業者が指定管理者として責任を持って行うことで、長期間にわたって安定的かつ効率的な経営及びサービスの質の確保を図っていく。本プロジェクトについては、豊島区民を主な想定入居者層としている。

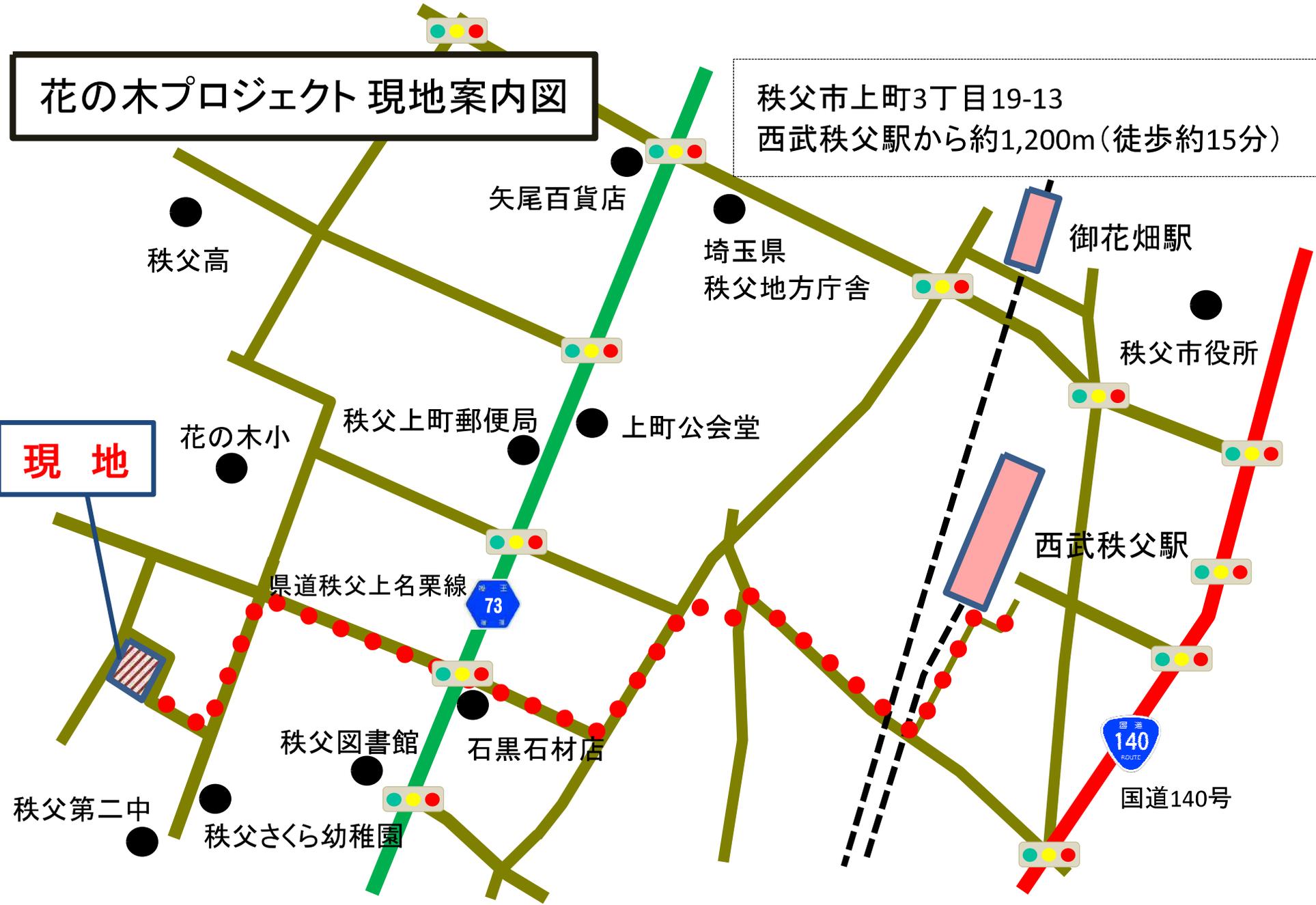


花の木プロジェクト事業スキーム

花の木プロジェクト 現地案内図

秩父市上町3丁目19-13
西武秩父駅から約1,200m(徒歩約15分)

現地



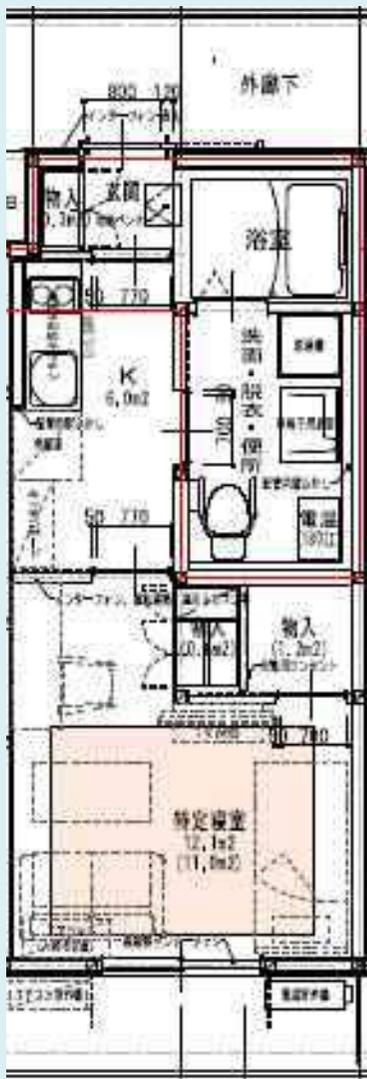
秩父市生涯活躍のまちづくり「花の木プロジェクト」施設配置図（案）



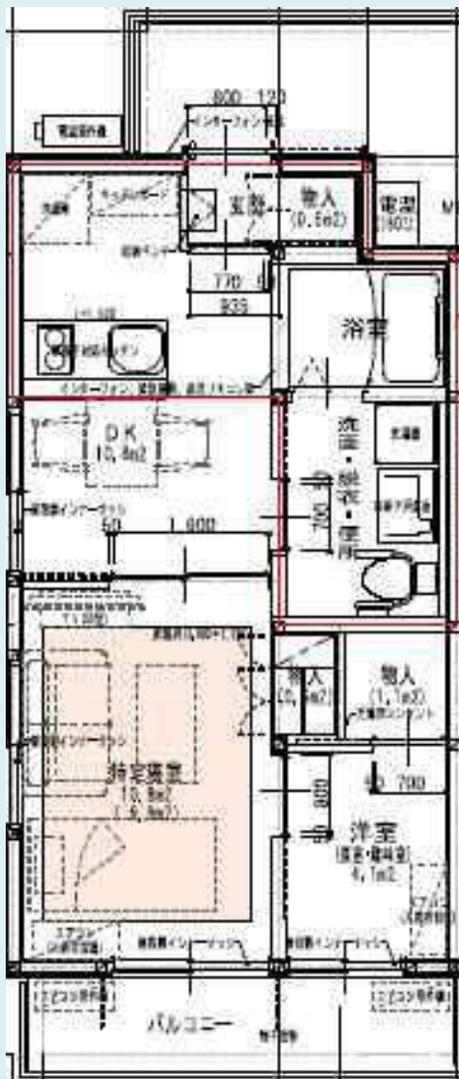
凡例	用途	備考
■	道路舗装	
■	植栽	事業主が管理
...	バリカー	東西に設置 状況に応じてどちらかを開放

「花の木プロジェクト」

サービス付き高齢者向け住宅（サ高住） 居室タイプ（現段階案）



Aタイプ(29.54m²)16戸



Bタイプ(36.44m²)2戸



Cタイプ(47.62m²)2戸

「花の木プロジェクト」基本協定について

秩父市 市長室 地域政策課

1 協定名称

秩父市生涯活躍のまちづくり（秩父版 CCRC）モデル事業（拠点整備事業）「花の木プロジェクト」サービス付き高齢者向け住宅等整備・管理運営事業実施主体 基本協定

2 締結当事者

秩父市（市長 久喜邦康）
株式会社コミュニティネット（代表取締役社長 須藤康夫）

3 協定内容

事業契約（土地の賃貸借条件等、詳細項目に係る契約）の締結に先立ち、「花の木プロジェクト」を本格的に進めることについての双方の合意を再確認するとともに、双方の義務その他諸手続に関する了解事項を確認するもの。

4 締結日

平成 30 年 9 月 11 日

「株式会社コミュニティネット」の概要

- | | |
|-----------|--|
| (1) 名称 | 株式会社コミュニティネット |
| (2) 所在地 | 東京都千代田区有楽町 1-7-1 有楽町電気ビル南館 5 階 |
| (3) 電話番号 | 03-6256-0574（代表） |
| (4) 会社設立 | 1998 年（平成 10 年）6 月 24 日 |
| (5) 資本金 | 334,207.5 千円 |
| (6) 代表者 | 代表取締役社長 須藤康夫 |
| (7) 事業内容 | 高齢者施設「ゆいま～る」シリーズの企画・開発および運営、生活環境づくり・地域再生の調査研究・コンサルティング |
| (8) 従業員数 | 213 名（パート含む）（2018 年 3 月 31 日現在） |
| (9) 企業サイト | http://c-net.jp/ |

